今日は、北九州市教育委員会が平成二十七年に募集した人権作品の中から、北九州市八幡西区にある特別支援学校の高等部三年生、池田隼人さんの『僕』という詩を紹介します。本人の朗読でお聴きください。

『僕』

北九州市立八幡西特別支援学校 高等部三年 池田 隼人

僕は自分の体が好きだ

この不自由な体が好きだ

難しいこともたくさんあるけれど

僕は何だっぺできる

友達もごめん

勉強もすね

買い物もすね

夢もある

みんなとなにも変わらない

たった一つの大切な命だ

僕は挑戦をやめない

できなごうとをきびぬけたいです

できることをもつとびきぬけたいです

辛くても悲しくても

どんなに高い壁があったとしても

僕は進み続ける

なぜなら僕は自分の体が好きだから

小さな成功を大きな喜びに変えてくれる

この不自由な体が大好きだから

いかがでしたか。

簡潔な表現でつづられた言葉に、力強さを感じませんか。実は隼人さんは、この詩をたった十分ほどで書き上げたそうです。心からあふれ出した思いをそのまま書き取ったのかもしれないね。

自分の体が好きだという隼人さん。隼人さんには障害があり、不自由なときもあるけれど、たった一つの命です。友達をつくる、勉強や買い物をする、夢に向かう。隼人さんは、全てがこの命を通して実現していくと知っています。

そんな隼人さんの毎日は挑戦の連続です。授業や部活動など、どんなことにも全力で取り組む隼人さんの姿が目につかびます。そして、「僕は挑戦をやめない」と宣言します。高い壁があっても、歩みを止めることはありません。

日常のほんの小さな成功も、持っている力を出し切ったとき、大きな喜びとなります。そんな感動を与えてくれる体を、命を、隼人さんがとてもいとおしく思っていることが伝わってきます。その思いこそが、挑戦の原動力なのかもしれません。

隼人さんの夢は、小学生のころから変わらず「コンピュータープログラマーになることです。今、専門学校で、その夢の実現に向かっていきます。私たちが、自分のたった一つの命をいとおしみながら、挑戦し続ける人生を送りたいものですね。

では、また。